

第52回 土岐市地域公共交通活性化協議会 議事録

日時：令和7年11月14日（金）14：00～15：45

場所：土岐市役所・2階大会議室

（参加者）

※敬称略

委員	磯部 友彦	山田 和洋	木村 治史
	水野 礼二（代理）	藤田 明博	稲垣 健児
	塚本 寧（代理）	宮地 統久	田中 英治
	澤田 利幸	三輪 やよい	加藤 千恵子
	下平 真一郎（代理）	市橋 ますみ（代理）	高柿 弘義
	牧村 潤一	平田 宏保	渡邊 豪
	鈴木 正義	鷺見 直人	籠橋 昭範
	熊崎 直美	加藤 剛	西部 浩司
事務局	伊藤 智治	古田 貴祐	西尾 祐人

欠席 坂崎 陽祐委員、加藤 美由紀委員

■議長選出

- ・磯部副会長を議長に選出

■協議事項（1）～（5）：新病院（東濃中部医療センター）へのアクセスについて（事務局）

- ・資料1～5について説明

協議事項	概要	主な変更点
1. 市民バス肥田線の改変	新病院へのアクセス確保のための路線新設および運行ダイヤの変更。	1.肥田線従来路線の新病院経由化。 2.土岐市駅と新病院間を往復する路線を新設（朝8時・11時台に増便）。 3. 従来路線を1便増便。
2. 肥田線増便に伴う他路線の変更	肥田線増便の車両・人員確保のため、市民バス河合線のダイヤを一部変更。	河合線・土岐市駅 8:19 発を 8:40 発に変更。
3. 市民バス土岐南北線の改編	新病院アクセス確保のため路線の延伸および旧病院への乗り入れ路線の廃止。	1.路線を新病院まで延伸し、新病院を発着地とする。 2. バス停「総合病院」を廃止及びそれに伴う路線の廃止。
4. 東濃鉄道の一部路線の廃止	旧病院閉院に伴い、総合病院への乗り入れを廃止。	土岐＝下石＝東駄知線、土岐＝妻木線のバス停「土岐総合病院前」を廃止及

		びそれに伴う路線の廃止。
5. 予約あいのり タクシー「のって こ」の目的地・出 発地変更	旧病院閉院に伴い、目的地・ 出発地を新病院に変更。	目的地・出発地を新病院（東濃中部医 療センター）に変更。一部路線ではウ ェルフェア土岐を目的地から廃止（利 用者が少ないため）。

〈意見・質問〉

（渡邊委員）

・市民の関心が高い新病院へのアクセスについて、今回の路線整備で遠方からの帰宅の利便性が確保され非常にありがたい。

（磯部委員）

・救急車両の入口はどこになるか。また、一般車両により救急車両の走行への影響は問題ないか。

（会長）

・救急車両はバスルートと異なるルートが設定されており、一般車両との交錯は避けられるようになっている。

（渡邊委員）

・肥田線の増便により、市民バス河合線の時間変更が生じる。通勤利用者への影響について。

（事務局）

・一週間程度、河合線への乗り込み調査を実施した。通勤の利用者へ丁寧に説明していく。

（水野委員代理）

・肥田線の増便について、一番稼働が高い朝の時間帯なので、人員・車の確保上、何かを削る等が必要になってくる。単純に便を増やすことは難しいという事情の中、協議を重ねて、決定させていただいた。ご利用者には大変ご迷惑をおかけするが、ご理解いただきたい。

（渡邊委員）

・のってこ（土岐津・泉線、肥田線）の行き先としてのウェルフェア土岐の廃止について。

（事務局）

・当該路線のウェルフェア土岐への利用は、数カ月に一度あるかないか、限りなくゼロに近

いため、廃止についてご理解いただきたい。

(三輪委員)

- ・瑞浪市から新病院へ行く路線バスはないか。

(事務局)

- ・路線バスはないが、現在の東濃厚生病院から新病院へのシャトルバスが出るときいている。

(三輪委員)

- ・シャトルバスに途中から乗ることは可能か。

(事務局)

- ・直通のシャトルなので、途中の乗り降りにはできない。

(磯部委員)

- ・市民の要望であれば、取り上げて協議するのがこの会議の役割ではないか。

(会長)

- ・この場は土岐市内の地域公共交通の協議の場であり、瑞浪市と厚生連のシャトルバスについての意見は承るが、利用について言及することは差し控えたい。

(磯部委員)

- ・資料上、「新病院」となっているが、バス停としては「東濃中部医療センター」であり、利用者が混乱しないように、周知を丁寧をお願いしたい。

(事務局)

- ・丁寧に周知していく。

(渡邊委員)

- ・Google Map への更新はいつ頃更新されるか。

(事務局)

- ・1月中旬を目途に更新する予定。

(山田委員)

・陶元浅野線のバローから病院へ上げっていく道について、積雪した翌朝、雪が解けない可能性があるので、道路管理者に対応をお願いしたい。

(会長)

・適切に対応する。

(下平委員代理)

・資料3の12ページについて、総合病院の奥に施設があるかと思うが、総合病院敷地内のバス停廃止について影響はどうか。

(委員)

・奥に看護学校があったが、現在使用していないので、問題ない。

(磯部委員)

・協議事項(1)～(5)について、原案どおり、承認でよろしいか。

・承認

■協議事項(6) 駄知どんぶりバスの改編について

(事務局)

・資料6について説明

収支率の減少により、運行便数の変更(6便/日→5便/日)と運賃の改定(100円→200円)を実施する。協議会終了後、運賃料金部会にて運賃改定の協議を実施。

(塚本委員代理)

・町内会の財政状況から、収入を増やすための方法として、広告収入なども検討したが、まずは受益者負担のバランスから、今回の提案をさせていただいた。

(磯部委員)

・協議事項(6)について、原案どおり、承認でよろしいか。

・承認

■協議事項（7）第2次土岐市地域公共交通計画策定方針（案）について

（事務局）

- ・資料7について説明

現行計画（令和3年度策定）の終期（令和9年3月）を迎えるにあたり、今後の課題（人口減少、人手不足、新技術導入）に対応するための次期計画（令和9年度～令和13年度の5年間）策定方針を策定。

* 基本理念（案）：将来にわたって安心して利用できる公共交通ネットワークの実現

* 基本目標（案）：

- * 主要な施設へのアクセス確保
- * 地域特性に応じた柔軟な交通手段の導入（DX技術、ライドシェア等）
- * 担い手の確保・育成と地域体制の強化、公共交通に対する市民意識の向上
- * 乗継しやすい環境整備により広域的ニーズへの対応

（磯部委員）

・課題の整理のところが、否定的な表現と、肯定的な表現が混在しているので、ニュアンスの整理をした方がよい。

（渡邊委員）

・現計画の課題であった項目が今回の策定方針の課題の中に記載がないものについては、解決されたということでしょうか。

（籠橋委員）

・現計画の課題4に新たな施設立地への対応については、イオンモール土岐や東濃中部医療センターの開業に伴う路線の充実を図っており、今回の計画から外している。課題3の乗りやすさ・乗り継ぎのしやすさの充実については、市民バスとしてはGTFSの整備を継続しており、民間事業者様については経営判断によることもあるため、協議をしながら進めていく。乗継場所など乗り継ぎのしやすさについては、今後の検討課題ということで次期計画に含めている。

（渡邊委員）

・MaaSについては、DX技術の中に含まれているということか。

（事務局）

・目標2のDX技術の中に位置づけ、土岐市にふさわしいものかどうか情報収集しながら検討していく。

(水野委員代理)

・GTFSについては、インバウンドを主体とした観光利用の利便性を高めていくために、早急に対応を進めている。順次、イオンモール土岐や、アウトレット線など観光地を優先的に整備し、将来的には全部対応いけるよう進めている。

(木村委員)

・各目標に対する具体的な施策は、計画案の審議のタイミングで示されるということか。

(籠橋委員)

・お見込みのとおり。本日は方針の案を審議させていただき、具体的施策については、今後の協議会の中でお示しさせていただく。

(磯部委員)

・今日の段階では、市民の生活の中で、困る人が取り残されていないか等、方針として大事なことが抜けていないかをチェックすることが重要。

(加藤委員)

・ライドシェアについては市としてどのように考えているか。

(事務局)

・目標2の「地域特性に応じた柔軟な交通手段の導入」の中に含めており、今後の法整備の状況を見ながら、検討を進める。

(下平委員代理)

・一般の人の車と一般で乗りたい人のマッチングはまだ法制化されていないが、現行として、公共ライドシェアと日本版ライドシェアであれば制度としては可能。

(山田委員)

・日本版ライドシェアについては、この地域でも手を上げている事業者はいるが、時間が限られており、なかなか応募がないなどハードルが高いのが実情。公共ライドシェアについては、地域の実情に合わせて、地域住民が自分たちの考えに基づいてNPO法人や地域の協議会などが、一部運行のプロの力や、市役所の財政的負担を含めて、考えながらやっていくというもの。土岐市でいうと、駄知どんぶりバスを白ナンバーでやった場合のようなイメージに近いが、ライドシェアといってもアメリカのようなライドシェアばかりではないのでご理解いただきたい。

(磯部委員)

・地域特性に関連して、タクシーやバスが来ない地域や、時間帯を交通空白とするが、それにあたるかどうかという議論も必要になってくる。また、特区申請により、地域の困りごとを積み上げて、規制緩和をしながら進めるという方法もある。

(藤田委員)

・先ほどのライドシェアについては、東鉄アシストとしても手を上げていたが、社内制度や賃金の問題等があり進んでいない状況。お客様からタクシー不足の声は聞いているが、乗務員は随時募集しており、昨年に比べると全体として乗務員数は増えてきている。様々な形で採用活動を今後も展開していくが、乗務員不足によるタクシーがなかなか来ない状況についてご理解いただきたい。

(磯部委員)

・国土交通省が交通空白解消本部を立ち上げ、様々な事例がある。通常のバスやタクシーで足りなければ、企業送迎車を活用するなど、地域にある資源を調整しながら活用するのも1つの方法である。

・協議事項(7)について、原案どおり、承認でよろしいか。

・承認

■報告事項(1)新病院アクセス対応に伴う公共交通網の見直し方針(案)について (事務局)

・資料8について説明

自動運転バスの実証実験の結果:

* 実績: 2 イベント等含め合計約 600 名が乗車。9 割以上が再乗車意向。

* 課題: 最高速度が 18km/h と遅く、一時的な渋滞が発生し苦情があった。

AI デマンド交通の実証実験の進捗(2025 年 10 月から運行開始):

* 実績: 運行回数 128 回。登録者数 102 名、うち利用者 30 名。

* 利用者傾向: 70 歳以上が半数以上を占める。利用が多い時間帯は市民バスが休便となる 10 時台と 13 時台。

* 今後の予定: 新病院開院に伴い、令和 8 年 4 月より新病院エリアを追加。

(加藤委員)

・新病院へ行く場合、AI デマンド交通と自動運転バスの運賃設定は。

(事務局)

・ AI デマンド交通は、泉北団地エリアからは 500 円、土岐市駅周辺エリアからは 300 円を計画している。自動運転バスについては未定である。。

(澤田委員)

・ AI デマンドについて、延べ何人の方が利用されたか。

(事務局)

・ 同乗者を含めた延べ人数が 128 人。資料の年代別利用者の割合は延べ人数ではなく、実際の個別の利用者 30 人の割合を示している。

以上。

■事務局からの連絡事項

(1) AI デマンド交通実証実験について、新病院へ直接アクセスできるように、令和 8 年 4 月からエリアの追加を実施予定。そのための協議会を年明け 1 月~2 月に書面開催する予定。

(2) 前回の協議会でご質問がありました件について回答する。肥田バローの交差点を時間設定してスクランブル化することは可能かどうかという質問があったが、警察に確認したところ、スクランブルの切り替えのタイミングが危険であるため、対応は難しいという回答があった。